

## 中学部の実践

### 中学部における社会化を目指す指導

#### 1 生活单元「大山林間学校」における社会化の試み

取り上げられる生活单元は、どの单元でも社会化を目指した題材であるが、特にこの「大山林間学校」は中学部の学部行事单元であり、生徒たちの興味や関心が強く、楽しく参加するうちにいろいろな能力や態度を育てることが可能である。

宿舍での合宿生活に伴う自立化の内容、工場や施設の見学など将来の職業化への関心を喚起させる内容、その他、レクリエーション、野外炊飯、見学地についての学習など社会化に向けた豊富な活動が準備されているので、この実践を通して社会化を育てると共に、指導に関するいくつかの問題点について検討してみたい。

特に重点的な問題としては、

- (1) 生徒の生活（希望・意欲・関心なども含めて）をどう学習内容に位置づけ、生徒自体の問題として学習に取り組ませるか。
- (2) 生活单元、教科、作業学習等の内容をどのように関連づけ、生徒の学習活動を活発にするか。
- (3) 家庭における生徒や家族の生活と学習活動をどのようにつないでいけばよいか。

などの点を中心にして社会化への実践を試みたい。

##### (1) 「大山林間学校」の单元計画と社会化への位置づけ

- ① この单元は中学部の全員が参加する学習であるから、同じ内容の場合は学年が進むに従って目標や内容を高めていかなければならない。
- ② この单元は豊富な学習内容を含んでいる。従ってこの内容を選択したり、配列するに当たっては、学年、先行経験、学習能力の程度などを考慮することが必要である。
- ③ この单元は興味・関心が持たれ易く、学習意欲も盛り上げ易い。だが、学年によって  
1年生……先生や友だちの援助を受けながら～する。  
2年生……ひとりできちんとする。みんなと力を合わせて～する。  
3年生……すすんで～する。

というように、だんだん自主的に取り組む態度の育成を目指した目標をもつことが大切である。

大山林間学校の单元目標から導き出された生活経験内容は、自立化から職業化に至る広範囲な項目を含んでいる。これを1年～3年に分けて配列し、具体的学習内容表にしたものが別紙表1である。この表の左側部分には自立化の内容があり、中央部分に社会化につながるものが多く、右側には基礎的な職業理解に関する内容があがっている。この表から各学年の具体的な学習計画を編成する。

生徒各個人の指導計画は、学年の指導計画を基にして生徒の能力や意欲に合わせて、学習内容をどう活動させるか。学習内容に対してどう表現させていけばよいか。と、いった点に焦点をおいて対策をたてていくことになる。

## (2) 「大山林間学校」の学習計画の構造について

社会化を目指す指導では、生徒の生活を題材にしてそれを高めていく学習であるから、形態的には生活単元学習が中核となってくる。だが、内容によっては、能力に合わせて表現の基礎能力の育成に力を入れて、学習活動を高める必要がある場合も考えられる。その場合には関連教材学習を組むことになる。

また、生活の問題を解決するのに、どうしても作業学習の形態を通さなければならないことが生じてくることも考えられる。

生活単元を中核にして、生活の問題を教科や作業学習のなかに移して専門性を生かして学習し、また生活単元学習のなかに返して学習展開する。そうして、生徒の学習意欲を高め、学習感情を一本につなぎながら少しずつ学習や生活の質を高めていく。

このような学習構造を考えながら、「大山林間学校」を中心にした2年10月の学習計画を図示したものが別紙表2である。矢印は学習内容が関連し、発展してお互に生かし使われていく方向を示したものである。また( )内の数字は学習予定時間を示す。

## (3) 学習展開の経過と実践上の重点問題

28時間の学習計画、期間にして約1ヶ月の長期間にわたる生活単元学習は、その内容がたとえ生徒の興味や関心があり、楽しい林間学校というだけではとうてい長続きしない。

このために、すすんで学習に取り組む意欲を高めたり、主体的に自分の問題として学習問題を考えなければならない必要感をもたせる。家庭とよく連携して学習意欲の持続を図る。生活に生かして使えるよう表現能力の育成に努力する。などの点で学習展開の経過に沿って実践したことについて述べる。なお、実践記録の対象である2年生の実態については表3で示す。

### ① どのようにして意欲的に学習に取り組ませたか。

ア 林間学校は学部行事である。1年と2年が共同生活をする。そこには能力の問題以前に、初参加者と昨年参加した経験者との差が生じる。この体験の差が、2年生にリーダーとしての活躍を期待する差である。

単元学習の最初にオリエンテーションをした。スライドを見ながら場所、宿舍、日程、コースなど、昨年のようなすをいろいろ説明してくれたのは、もちろん2年生であった。

表1 「大山林間学校」学習内容表

項目 学年	1	2	3
身なり	身だしなみをきちんとする。	場に応じた服装をする。	
整理・整頓	自分の持ち物の整理・整頓をする。	品物にあった整理のしかた・しまい方をする。(バックの中・小・小タンス)	
起床と就寝	寝具の準備や始末をする。		
住居	宿舎の掃除をする。		
入浴	ひとりで体を洗ったりふいたりする。	他の人迷惑をかけないように注意して入浴する。	きまりを守って入浴する。
行事への参加	校外生活にきまりよく参加する。	友だちを援助したり、リードしながらきまりよく参加する。	下級生を援助したり、リードしながらきまりよく参加する。
身近な自然の事象	いろいろな紅葉があることに気づく。	紅葉する木と紅葉しない木に気づく。	気大の頂上には木や紅葉がないことに気づく。
絵画	風景に興味を持ってスケッチをする。	風景の特徴に気づいていねいにスケッチする。	風景の特徴をとらえて工夫してスケッチする。
運動	ハイキングをする。	ハイキング・小登山をする。	登山をする。
関係・当番の活動	きめられたことをしようとする。	きめられたことをきちんとする。	
集会などの活動	集会の中でたずねられたことははっきり答える。	集会の中で発言したり、すすんで協力する。	先生の指導を得て、司会をしたり、進行したりする。
集団遊び	自由時間に友達と一緒に遊ぶようとする。	進んで遊びに参加する。	遊びを工夫して一緒に遊ぶ。
リズム的表現	フ・ム・ラ・ダンスをみんなと一緒に楽しむ。		
音声	説明やお話を聞いてことからのだいたいのあらましがわかる。	自分の意見などを相手にわかるように話す。	必要ときにはいねいに話す。
礼儀作法	場を意識して、みんなと行儀よくふるまう。	場に応じて行儀よくふるまう。	場を意識して、みんなの行儀に気を配ることができる。
あいさつ	早送先・宿舎でみんなと一緒にあいさつをする。	少しの援助で代表してあいさつをする。	みなを代表してあいさつをする。
生産と消費	毎日の生活に使っている品物がどのように作られているか興味をもつ。	身近な品物がどのように作られているか興味をもつて見学する。	毎日の生活に使っている品物の流通に興味をもつ。
公共の施設	市外電話をする。	郵便局を利用する。	公園などの公共施設を利用する。
文学	経験したことを日記や作文にかく。	はがき・手紙を読んだり書いたりする。	パンフレット・注意書きなどを見ておよその意味がわかる。
鳥取県の状況	県内の名所がわかる。	県内の名所・名所へ行くコースがわかる。	県内の名所・特産物がわかる。
食物	簡単なおかずを作る手伝いをする。	簡単なおかずを作る。	調理用具を安全に使う。
買い物	メモをみて2・3の品物をまちがいない買い物をする。	デパート・スーパーなどで売り場をさがしながら買い物をする。	千円以下のお金の種類がわかり換算する。
貯蓄の管理と	先生の指導で貯金をひき出す。	こずかいを自分で考えて使おうとする。	こずかいを自分で考えて使いむだつがいしないようにする。
仕事の態度	指示をよく守って仕事をする。	働くことに興味をもち、進んで仕事をするようになる。	自分が分担した仕事は最後まで責任をもつてする。
進路への理解	いろいろな職業があることに興味をもつ。	職業をもつことの大切な意味がわかる。	自分の進路に関心をもつ。

表2 第二学年 生活単元「大山林間学校」学習計画構造図

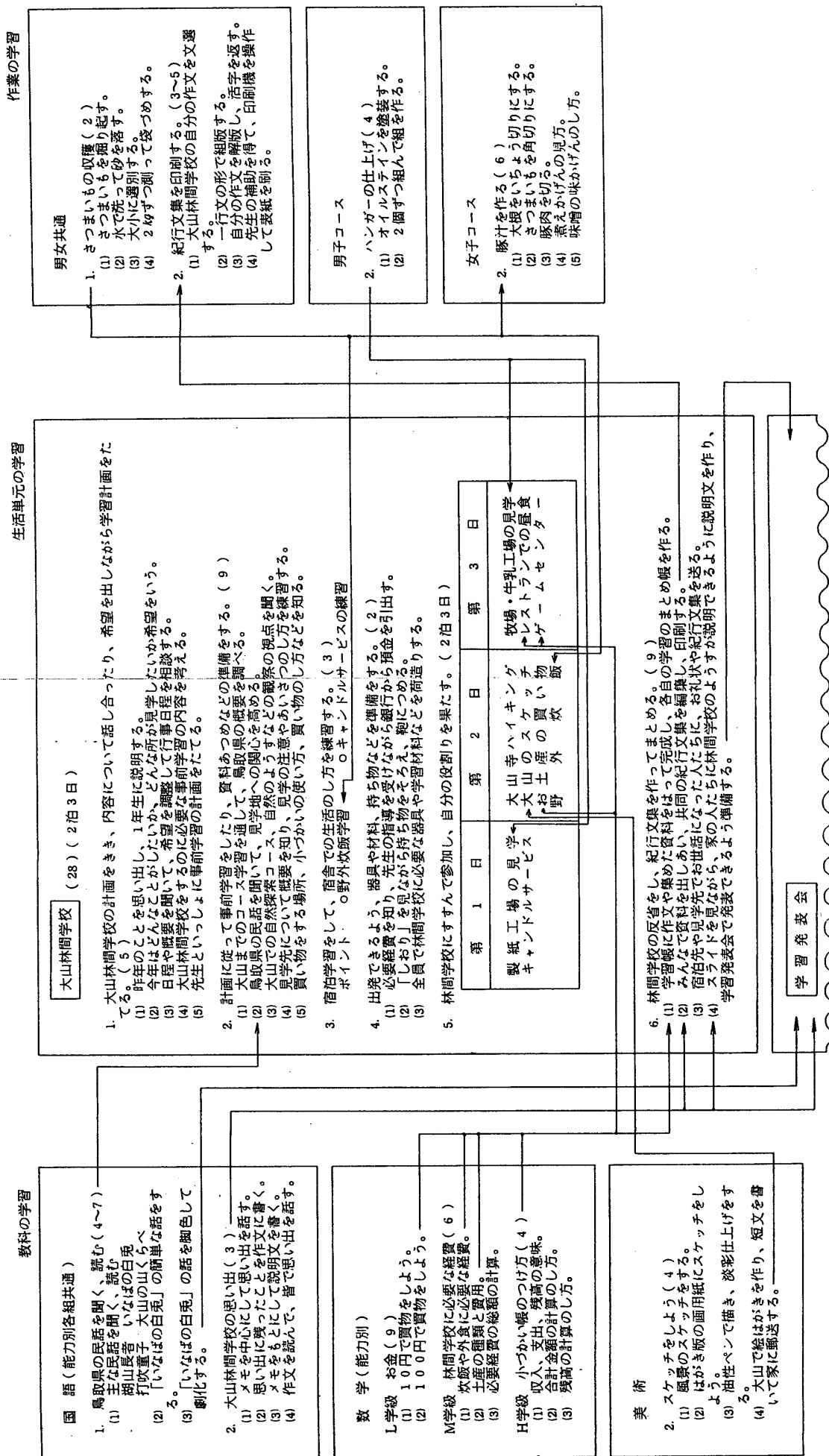


表3 中学部2年生の実態(55、10、15現在)

氏 名 (I . Q)	C . A (M . A)	生活、学習上の特徴、特記事項
F 夫 (45)	14 : 0 (5 : 10)	行事や課題へは敏感である。経験と結びつけ必要な事や希望等よく発表する。機能的な問題もあって表現が不正確、雑であるためいいかげんな取り組み、集団を乱す行為と取られ勝ちである。補助をしながら、小さな事を一つずつ正確にやりとげさせれば、自信を持ち落ち着いて取り組める。
H 郎 (60)	14 : 0 (7 : 10)	行動が緩慢で、敏感に何かに気づいて行動する事が少い。指示された通りの事はできるが臨機応変の処置がとれない。事にぶち当たっていく情熱とリーダーの自覚ができれば、もっと能力を出し切った生活ができると思う。最近、少しずつ自主的な取り組みや友達への思いやりが見えだしている。
N 夫 (55)	14 : 1 (7 : 1)	固い殻をかぶり、友達の行動をうしろからながめていたり、心は他の事を考えていて、すすんで取り組む事は少い。危機場面では、場に適した判断や行動で対処し、驚かせる事がよくある。自己表現させる事、担任や友達との共感を育てる事に心がけ、最近、急に活発になり、明るくなってきた。
M 夫 (45)	14 : 3 (6 : 0)	行事や課題へは敏感であり、必要な事や希望など良く発表し、アイディアのセンスもよい。実際場面、緊張場面では全く自信がなくなり、力の半分も生かせない。学習面での緻密な積み上げのやり直しと現場での活用の両面から自信を持たせるように心がけ、最近、思い切った挑戦も見えだした。
H 夫 (40)	15 : 1 (5 : 8)	自閉的な傾向が強く、言葉では表現しないが、行事などへの期待感や意欲は、表情などによく表わしだした。友達から世話や指示をされながらも、集団の一員としても安定している。手先が器用で仕事も正確なため、作る学習では重要な役割を果たしている。少しずつ自分から取り組む場面もある。
S 子 (55)	15 : 2 (7 : 10)	温和しいが自分の意見は言える。目的にいつも向っていて、家庭でもいろいろ準備をしたりしてくる。学習能力はあまり高くないが、S Qは70と高く、常識的な行動がとれる。H夫やS夫のめんどろをよくみる。個々の能力を少しずつ高めていけば、もっと豊かな生活がめざせると思う。
S 夫 (28)	17 : 2 (4 : 8)	本年度、他の養護学校からの転入生。学習能力も低く、集団参加でも問題があり、まわりに迷惑をかけていたが、どんどん安定し、あまり目立った存在ではなくなってきた。やる気充分でとりくむが能力が伴わずしょんぼりしてしまう。小さな成功を積み重ね、少しずつ自信がついてきた。

仲間が仲間に教える。友だち同志で学習する。この学習指導法は、この子たちにとってもすばらしい指導法であるようだ。

イ 生徒たちが、林間学校に連れて行ってもらふのだという依存的な気持ちで参加するのであれば、学習を進める上でも生活面でも積極的な学習への取り組みや、社会へのかかわりも期待することはできない。そこで、まず、学習計画をたてるに当たって、林間学校に向って積極的に取り組んでもらうために、自分のやりたいこと、見たい所を、「林間学校でやってみよう」「見学しよう」という形でアンケートに書かせた。

アンケートには生徒の思いつくままに自由に書かせ、日常ありきたりの「部屋でテレビが見たい」「ふろに入りたい」といったことでも書かせ、これをもとに学習内容を取り出し学習計画をたてた。

ウ アンケートの結果は、それが実際の林間学校の日程の中に入らなければ、希望が無視されたことになり、学習初期の段階ですでに生徒にやる気を失なわせることになる。生徒たちが出した希望のなかで主体的に取り組めるものは、できるだけ日程のなかに組み入れるようにした。内容的にも時間的にみても日程の中に入れられない問題や、希望内容を変更する場合には、そのことをいい加減にしたり無視したりしないで、生徒の気持ちを大切に納得させた。

こうした配慮のなかで、生徒は、はじめて林間学校は先生に引率されていくものでなく、自分たちで計画し、楽しい行事に盛り上げていくのだという意欲を持つようになった。

エ 同じ学年であっても、その能力にはかなりの差が見られる。アンケートでも林間学校の行事にふさわしい内容を希望として出す生徒がいる一方、ごく日常的な生活の希望しか出せない生徒もいる。日常生活のありきたりの希望だからどうでもいいというのではなく、こういう生徒の希望こそいい加減に取り扱わないで、大切に受けとめてやることが大切だと考える。

また、そういう日常ありきたりの希望しか出せない生徒こそ、気持ちのあたたための難しい生徒であるために、教師と生徒の1対1の個別指導のなかで、この生徒の気持ちをもりたてる配慮が必要であると思う。

#### ◎ アンケートの例

##### — H 郎の場合 —

1. 大山に行って山陰アシックスが見たい。
2. 大山乳業のさむい所に行きたい。
3. おやつをもっていきたい。
4. レストランで食事がしたい。
5. ゲームがやりたい。
6. お土産を買いたい。
7. 倉吉の動物園がみたい。

##### — S 夫の場合 —

1. みんなとねたい。
2. ごはんが食べたい。
3. ふろにはいりたい。
4. ゲームがしたい。

#### ◎ アンケートによる希望が多かった順

##### — やりたいこと —

- |            |             |
|------------|-------------|
| 1. ゲーム     | 5. レストランの食事 |
| 2. おみやげを買う | 落ち葉拾い       |
| 3. 野外炊飯    | テレビ         |
| キャンプファイヤー  | おやつ         |
| トランプ       | おべんとう       |
| うた         | 6. みんなとねる   |
| 4. 山に登る    | ごはんをたべる     |
|            | ふろ          |
|            | すもう         |
|            | バスに乗る       |

##### — 見学したいところ —

1. 大山乳業
2. 山陰アシックス
3. 去年行っていない所
4. かんづめ工場
5. パルプ工場
6. 倉吉動物園
7. 香取牧場

アンケートを出して日程表を発表するまでに少し時間がかかった。生徒たちはこの間、ぜひ自分の希望を日程の中に入れてくれるよう、交互に担任にかけ合いに来た。日程表が発表されるや、自分の希望したことが日程の中に組まれているかどうかをいっしょうけんめいに探し、日程表の中にそれを見つけた時には、歓声をあげて喜んでいた。

日程表を読み取り自分の希望と対比して、やりたいこと、見学先が理解できたのは、比較的能力の高いH郎、N夫、H夫であった。

2年生は昨年見学した工場のことが印象にあり、とくに大山乳業とアシックスの希望が強かったが、昨年見学した所から一ヶ所ということで大山乳業にきまった。

#### オ 導入段階における指導の結果と反省

各家庭において、林間学校について家族の人といろいろ話し合わせながらアンケートを書かせた。このため保護者は事前に林間学校に注意を向けることができた。このことは学習がスムーズに運んだことの外、この行事が終るまで学校と家庭をつなぐ大きいきっかけを作った。また、そのことがこの学習を成功させる大切な原因となったと思う。

次に、学習の初期に、1年2年合同学習の場で林間学校のことについて2年生に説明させた。このことは1年生の主体的な学習雰囲気をも弱めたのではないかと心配した反面、この活動がなかったら、2年生に上級生（経験者）としての意識づけもできず、2年生の導入学習は単なる思い出学習に終わったのではなかったかと思う。

#### ② 長い生活単元学習期間中にどのようにして学習意欲を持続させたか

ア 林間学校の学習計画を教師がたて、生徒はそれに従って学習する形では、とうてい長続きはしない。学習を成立させるためには生徒自身に何を学習するのか、どうして学習するのかということが理解されていなくてはならない。

生徒自身に目的意識や必要感をもたせるために、アンケートの形で「林間学校のためにどんなことを知っておきたいか」「どんなことを先生に聞きたいか」について、各家庭で家族と話し合いをさせて書かせた。（表3）

表3 生徒から出た知りたいこと、疑問など

- |                        |                      |
|------------------------|----------------------|
| 1. どんなものを持っていけますか。     | 7. 宿舎でなにをしますか。       |
| 2. どんな班にわけますか。         | 8. 食堂はどこにありますか。      |
| 3. おこづかいはいくら持ってもいいですか。 | 9. 大山はどこにいきますか。      |
| 4. お土産を買うところがありますか。    | 10. どんな道を通っていきますか。   |
| 5. おやつはいりますか。          | 11. 乗り物はなにに乗っていきますか。 |
| 6. どの先生といっしょですか。       |                      |

このアンケートから出てきた質問事項を含めて、林間学校に向けての一連の学習内表を拾い

出し、生徒のことはを使って組み立てた学習計画表(表4)を作り、生徒といっしょに確認した。

表4 大山林間学校学習計画表

	月(6日)	火(7日)	水(8日)	木(9日)	金(10日)	土(11日)	月(13日)	火(14日)
1	生活 ○大山までどうやっていきますか。 ○大山にいくまでどんなところをとおりますか。	東 部 地 区 特 殊 学 級 養 護 学 校 連 合 運 動 会	国語 ○大山にいくまでの有名なお話をよみます。	生活 ○大山ではどんな山にのぼりますか。 ○どんなところを散歩しますか。 ○木の実や落ち葉をひろいますか。	体 育 の 日	生活 ○今までの学習でわかったこと。	生活 ○工場はどんなところを見学しますか。 ○工場を見学するときは、どんなことを守らな いといけませんか。	数 学 ○おみやげをかって もいいますか。 ○レストランで食 事がしたい。
2			職 業 ○大山でつかうだけあるかな。 ○大きい、重たいのをみつけよう。	数 学 ○おみやげをかいま すか。 ○おこづかいはいつか つてもいいですか。		体 力 測 定	国 語 ○いなばの白うさぎ のこと。	生 活 ○とまる旅館にはいつてありますか。 ○見学する工場にはいつてありますか。 ○やどでは、どんなことを守らないといけませんか。
3	国 語 ○大山にいくまで、 どんな有名なお話 がありますか。						職 業 ○ハンガーはでき上 がりでしたか。 ○ハンガーをかんば つてつくろう。	
4	職 業 ○大山でごはんをた いいたりしますか。 ○ぼくたちのつくつ たものでおかずを つくりましょう。							

#### イ 学習を関連づけるためのステップ

生徒は学習をこまぎれの断片としてとらえる傾向が強く、そのため、学習したことが知識として残りにくいようである。このことは、彼らの能力だけの問題ではなく、学習がより具体的な一連の流れとして指導されていないためではないかと考える。この学習でもその傾向におちいる危険性は十分考えられる。生徒に一時間一時間の学習が関連づけて捕えられるようにするためにはどうすればよいか。一案として次のような方法をとってみた。

#### ○ 3つのステップ

- A 授業の中での反復学習
- ↓
- B 家庭に帰ってからする学習課題の決定と記録
- ↓
- C 家庭での学習ノートへの記入



#### (A) 授業の中での反復学習

一時間一時間の学習は、実際に林間学校に行ったときの、ある時点についての学習であり、日程、林間学校のコースと切り離して考えることはできない。学校を出発してから、学校に帰ってくるまでのある場面を学習する。その時に、本時学習にいきなり入るのではなく、出発の時から日程とコースにしたがって、本時の学習場面までについて復習していった。生徒はそのことで、本時は林間学校の日程のどこを学習するのかということがわかると同時に、学習計画表と合わせて学習内容を確認することができる。

#### (B) 家庭に帰ってからする学習課題の決定と記録

生徒は、学習計画表を見て次の授業でする学習内容を知ることができる。その学習内容のためにどんなことをしておかなければならないか、生徒の能力を考え、一对一の話しあいのなかからやっておかなければならないことを決め、生活ノートにそのことを記録させた。

生活ノート、10月14日（いえですること）

N夫…キャンドルサービスでする出し物を考える。

M夫…キャンドルサービスでうたうたをきめる。もっていくものをカバンにいれる。

（先生といっしょに決めた。）

H郎…キャンドルサービスでする出し物を考える。

F夫…キャンドルサービスでうたうたをきめる。もっていくものをカバンにいれる。

H雄…もっていくものをカバンに入れる。（先生といっしょに決めた。）

S夫…もっていくものをカバンに入れる。（先生の援助で書く。）

K子…キャンドルサービスのだしものをかんがえる。

#### (C) 家庭での学習ノートへの記入

その日に学習したことが、林間学校何日目のところと関係があるか、次にはどうすればよいかなど家の人との話し合いのなかから学習ノートに記入する。この学習ノートは、家庭と学校との林間学校に向けての連絡帳である。このことが次の学習へのつなぎになっていく。

#### ウ 興味・関心の広がり学習に生かす

学習を進めていく過程で、生徒たちは、初めのころ林間学校に行くために聞きたいと思ったこと、知りたいと思ったことの他に、興味・関心が広がってくる。このような生徒は、やはり比較的能力の高い生徒である。これは、教師との会話、友達どうし、親子の話のなかで、ふとしたきっかけで生まれてくるものが多い。その興味・関心をその生徒一人のものとし、みんなの問題として学習の中に生かしてやるのが大切である。家庭においても、生徒から出た何げない興味・関心にこたえられるような機会を、生徒に与えてやることも大切である。

10月14日、学習中・H郎との問答のなかより

「なぜみんな、大山、大山といっただろ」という質問に「有名だから」と答える「なぜ」「何が」という点になると困ってしまった。そのうち、大山が中国地方で一番高いということから「富士山は」という質問が彼の口から出てきた。この質問はでないだろうと思っていたので、少し驚いた。

10月14日、H郎学習ノート「母からの連絡らん」より

日本で富士山が一番、大山は…、世界ではエベレスト、大山は死火山であるとか、活火山、休火山があること、大山と富士山の高さの違いはどれくらいだろう。豪円山とは…、ミニブックを見せたら寝る前にもみていました。

次の日の学習時間のなかで

大山のコースを再確認するとき、大山の高さ、豪円山の高さを全員に尋ねたところH郎とF夫が答えた。H郎は家から持ってきたミニブックで調べたといい、F夫は、昨年学習したので覚えていたという。みんなで、地図帳をつかって大山の高さを調べることにした。その後、大山のコース地図の中に、大山と豪円山の高さを記入した。

エ 生徒の成功感と学習に対する自信

生徒は、心の中で思っていることがいっぱいあるのに、友だちや先生から圧迫されたり、言おうとしたことを言われてしまったりして心の中が満足されないことが多い。教師のほんのちょっとした心づかいで、生徒は成功感を味わう。そのことから学習に対する自信がうまれる。

林間学校では、野外炊飯が計画され、そのとき、みんなで自分たちが農園で作ったサツマイモをつかってぶた汁を作ることを決めた。ぶた汁づくりは、昨年、学習のなかで何度か作ったことがあり、多小の自信はある。今回は、10月9日の学習のなかで、少し作り方を復習した後、家庭と連絡をとり、10日の休日を使って、自分の家でぶた汁を作る練習をさせた。

— K子 —

きょうは、6じごろにぶたじるをつくりました。わたしひとりでつくりました。みんながおいしいといいました。おとうさんが、ぶたじるを4はいおかわりしました。

— H郎 —

今日は、ぶたじるを作りました。ぼくはお母さんといっしょにやったけど、ほんとうは、ぼくがやりました。お母さん、お父さんとおじいちゃんがとってもおいしいといわれました。となりにも、もって行ってあげました。

— N夫 —

ぼくは、きょう一人でぶたじるを作りました。はじめは水にいれました。あとからざいりょうを切りました。ぼくはじょうずにつくれました。大山りんかん学校のときもがんばりたいとおもいます。

— M夫 —

だいこんとにんじんをきりました。こんにゃくもゆでてきりました。いっしょにいれてたきました。ぐがやわらかくなってみそをいれました。とてもおいしかったです。とくにいもは、ぼくたちのつくったおいもだったからです。

— H雄 —

ぶたじるのべんきょうをしました。にんじん、だいこん、ねぎ、いも、しいたけ、さつまいも、だしをいれました。

S 夫の家庭からの様子（母親からの連絡らんより）

さつまいもをもらってきてとても得意で、夕方には、ぶた汁をつくるのを手伝ってくれました。

林間学校に行ってもだいじょうぶかどうかを、15日、16日の一泊二日の校内宿泊学習でテストすることになった。とくに、身のまわりのしまつ、きまりを守るという点を見ることにした。合格したときはシールがもらえ、不合格がたくさんあると、林間学校にいけない約束になった。

宿泊学習に対するN夫の親の記録とN夫の日記より

○ 宿泊のじゅんぴのようす

ファイルを見ながら一人で衣類をカバンに入れました。何も忘れ物はないかなといいながらやっていたようです。朝食の買い物に出ることを楽しみにしていました。電話をかけるから8時半ごろは風呂に入らないよう注文を出していました。

○ 宿泊から帰ってからのようす。あとしまつなどはどうだったか。

「お母さん、シールもらえたよ」と帰るなり報告しました。本当にうれしそうな顔で、「おやつが残ったから尊宏にもあげようか」などといってはしゃいでいました。

○ 日記「宿泊で合格したきもち」

ぼくは、宿泊で合格してうれしいです。シールを3つももらいました。したじきももらいました。とてもたのしい宿泊がくしゅうでした。こんどは大山りんかん学校で、がんばりたいと思います。

③ 次時への学習のつなぎをどうしたか。

ア (2)のイとも関連して、特に家庭との連携を取っていくことが、生徒の次時に対する学習意欲をもちあげることになる。そこで、林間学校の学習では、学習計画表（表4）にそって、家でやる準備や課題などを家庭学習計画表（表5）として作った。生徒はこの表により、次時の学習にそなえて事前に準備や課題に取り組めると考えた。

表5 林間学校のための家庭学習計画

6	月	地図に地名をはっておく。大山に行くコースをお話する。
7	火	地図の中の地名をおぼえる。（四つの市、二つの池、鉄道、三つの川、道路、三つの山など）
8	水	大山のことをしおりで読む。大山のここの書いてある本をさがす。
9	木	大山で、どんな所を歩き、何をするか家の人にお話する。
10	金	体育の日（ぶたじるを作ろう。特に皮むき、切り、あとしまつ）
11	土	今まで学習したことで、しおりに記入してないところを書く。
12	日	王子製紙、大山乳業は何をする工場か。香取牧場についてしおりをよんでおく。

13 月 宿舍のおじさん、見学する工場におねがいの手紙を書く。何を質問するか家の人と話し合う。

14 火 宿泊学習にいるものを、しおりを見てそろえる。出し物を考えておく。

次の学習にそなえて事前に準備や課題をしてきたとき、次時の学習には、それらのことを発表する場面、生かして使う場面がぜひほしい。そのことにより生徒は、やってきたことの喜び、満足感をもち、学習へ自主的に取り組み活発な発言も出てくると考える。

○10月9日「大山で見るところ、すること」についての実践例

家庭学習予定表では、生徒が事前にやる準備、課題は「大山のことをしおりで読む。大山のことの書いてある本をさがす」ことになっている。

学 習 活 動	意図・留意点・手だて	生 徒 の 反 応
1. 日程にそって大山への行き方を復習する。	1. 生徒が家で学習した成果を全員から積極的に発表させたい。	川・鉄道・池・道路などの名前を競い合うようにして発表した。
2. 大山ハイキングコースについて知る。 ○しおりを見ながらコースを知る。 ○ハイキングの中で見たい物し たいことを発表する。 ○発表をまとめる。	2. 昨年見た大山寺、河原、金門などでどんなことをしたか思い出させる。 ○生徒が家から準備した絵はがき、パンフレットなどを、ハイキングコースの上にはっていく。	M夫、S夫が事前に家から絵はがき、パンフレットなどを準備していた。絵はがきを準備した生徒はもちろん他の生徒も、場所の名と絵を結びつけて、ハイキングコースをよく覚えた。

○M夫…絵はがきを持って来て、先生からほめられ、本当にうれしそうだった。学習には意欲的に取り組んでいるが、場所の名前はなかなか覚えられない。しかし、どんな物があるか、そこでどんなことをするのか、などはよく覚えている。

○S夫…絵はがきを持ってきて、ほめられているM夫を見て、家から持って来たパンフレットを出してきた。事前学習がよくできたことをほめてやる。能力的には、地名、学習内容などが理解できない程低いにもかかわらず、コースにはってある写真をよく見ていたり、すすんで学習に参加する。

家庭学習計画表にあがっていることは、生徒全員にかかわる準備・課題である。それらの準備課題とは他に、個々の生徒の学習状態を見て、いいかげんにしている所、にがてな所などを

見つけ指導するとともに、家庭にも、そのことを連絡し注意してもらう。

#### イ 日記による心のほりさげ

生徒たちは、その時間の学習を流す過程において自分なりに希望や考えを、口に出して発表しないときにも、少しでも持っている。しかし、そのことについて、一つ一つ取り上げて、その時間内に学習を進めることは難しい。そこで教師は、生徒の気持ちを知り、生徒自身が、自分の希望や考えをより明確にするために日記を書かせた。日記は、生徒自身の興味・関心・直面している課題などについてテーマを与えて書かせた。もちろん、これらのことが必ずしもすべて次の学習への関連があるわけではないのだが、教師自身が、生徒の日記を事前に読んでおくと、次時に対する具体的な生徒の気持ちを知ることができる。

#### (4) 社会化をめざした学習展開の実践例

##### ① 本時の主題「文集をお世話になった人に送る準備をしよう」

##### ② 学習のねらい

この学習のねらいとするところは「林間学校でお世話になった人に、文集やお礼状を送ること  
で感謝の気持ちを伝えたい」「文集を送るために郵便局を利用できるようにする」ということが  
大きなねらいである。そのために教師は、特に、定形外の郵便物の郵送を通して、郵便局の理解  
物の発送に対する理解を高めさせるなど、社会化をめざした指導を意図した。

##### ③ 学習経過

学 習 活 動	生 徒 の 反 応
1. でき上がった紀行文集を見ながら、 でき上がりを喜びあう。 ・自分の作文、活字を拾った作文を さがす。	でき上った文集をしみじみと見入っているH郎、自分の 文選した王子製紙が見つからず「ない、ない」とさがすM 夫、自分の作品を見つけ、とても喜ぶF夫など、みな一生 懸命にでき上がった文集の中から自分の作文をさがして見 せあったり、読みくらべた。
2. お礼状を読む。	お礼状を何度も読み返し練習をしていたN夫、先生にお 礼状を読むよういわれ、ゆっくりと一字づつていねいに読 んだS夫、2人ともいっしょうけんめいに読んだ。
3. 郵送の準備をする。 ・あて名書き。 ・文集にお礼状をそえて封筒に入れ る。 ・のり付けて封をする。	あて名の漢字がなかなか書けない。しかし何度も練習し てわくからはみださないように書いたF夫とK子。封筒に うすく書かれたあて名を、手をふるわせながらなぞったS 夫。みんなであて名を書いた後、文集にお礼状をそえて封 筒に入れた。のり付けをするとき、みんなで「ありがとう」 といいながらのり付けをした。

学 習 活 動	生 徒 の 反 応
<p>4. 定形外の郵便物の送り方について自作VTRをみる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「大きな封筒でも送れるか」</li> <li>・「大きな封筒でも50円で送れるか」</li> <li>・「封筒の中に一冊入れるのも、二冊入れて送るのも、お金は同じでいいか」</li> </ul>	<p>「大きな封筒でも送れるかな」という質問にH郎、K子、N夫の3人は送れると答えたが、他の4人はわからないという。そこで、事前に準備した自作VTRによって、近くの郵便局での教師と局員との対話を見せる。郵便局の人が「送れます」と答えるのを聞いて、歓声をあげて喜んだ。</p> <p>「大きい封筒でも50円で送れるかな」という質問には、全員が「送れない」と答える。自作VTRのなかで教師は、教室の中で生徒に質問していく要領で局員に質問していった。そのため生徒は、余分なことに注意を向けず局員の返答を注視して聞いた。「封筒が大きいと、それだけお金も高くなります」という郵便局員の返事にはとした表情であった。</p> <p>「封筒の中に入れるのも、二冊入れて送るのもお金は同じですか」の質問にH郎、K子は高くなると答えたが他の生徒はわからないようだった。</p>

(5) 生かして使う ― お世話になった人に文集を郵送する。 ―

学習の中では、大きい封筒は50円で郵送できないことがわかったが、お金をいくら払えばいいのかわからない。郵便局に行って聞けばいいということで、皆で近くの郵便局に行った。

郵便局では、「これを送りたいのですが、いくらですか」と尋ねる生徒。「お願いします」といって局員に差出す生徒などさまざまだった。

今までは、葉書には20円切手、手紙には50円切手を貼ってポストに投かんする経験だけで、公共機関としての郵便局の働きを知って利用するという機会は、ほとんどなかった。生徒たちがお世話になった人に、自分たちが作った文集を読んでもらいたいという気持ちで、文集を送ろうとした時に、郵便局の利用という問題はさけて通れない問題であった。

この学習の場合、ただ文集を送るというのであれば、あて名を書いて140円分の切手を貼って投かんすればそれで終了である。通常的生活単元学習では、この形で展開されている場合が多いようだ。私たちは、ここで一歩ふみこんで、これを機会に社会に対する関心を拡げ、理解を深めさせなければならないと考えた。

「小さい封筒でも大きな封筒でも50円で郵送できるだろうか」という質問が、生徒たちの社会的関心や理解を拡げ、主体的な活動意欲を高め、積極的に学習に取り組む姿勢を育てることにつながるのだろうか。そういう気持ちをこめて学習展開を実践したのである。

先生にいわれなくとも事前に駅の売店から140円分の切手を買ってきたN夫や、50円より高いということから郵便料金換算表と秤を持ち出してきたH郎の行動は、あまりにも出来すぎとしても、郵送局の機能の理解を広げ、それを利用させる適切な機会であったと考えている。

## 2 生活単元学習を支えた教科等の指導の実際

### (1) 国語学習からのアプローチ

#### ① 民話指導のねらい

鳥取県の地理や産業についての関心を高める。生活のきまりを身につける。集団生活を通して好ましい人間関係を育てる。等のねらいをもって、大山林間学校が計画された。この計画に関連して国語科では、単元として「鳥取県の民話」を設定し、鳥取県に伝わる民話を学習することによって、大山林間学校で見学する史跡への関心を高めたいと考えた。それと共に、学習した民話を自らの眼で確かめようとする意欲を高めたり、民話の味わいを肌で感じとらせることもねらいとした単元である。

とり上げた民話は、「湖山長者」「因幡の白兔」「打吹童子」「大山と高麗山の背くらべ」の4話で、いずれも鳥取県の史跡にまつわるものであり、鳥取県を代表する話として何かの機会に耳にしたことがあると思われる。この単元で学習する民話は、次の生活単元学習に計画されている学習発表会で劇化するという計画もっており、生活単元学習を支えるものとして重要な意義を持っている。

#### ② 民話「因幡の白兔」の指導

ここでは「因幡の白兔」をとり上げ、国語科における民話指導を劇化するまで発展させていった経過を記してみたい。

##### ア 生徒の実態

指導する対象は、能力別編成でHighクラスに属する3名であり、国語の学習能力と本題材に対する理解の実態は、次のとおりである。

生徒名	国語の学習能力	題材に対する理解の程度
H 郎	文章を読んだり作文を書いたりすることは、抵抗なくできる。読解は、読みとる文章を短くしたり、発問を具体的にするといった細かいステップで迫れば、かなりできる。筋道だてて話すことは、十分でない。	「白兔がわにぎめをだまして皮をむかれていたのを、大国さまに助けてもらった」